

# 2025年度 活動報告

おたふくの会

# 2025年度の主な活動

4月13日(日)	「ストライプコンポジション」	進行役	飯	干	美佐子
5月11日(日)	「透かし和紙で作るほおずき」	〃	土	井	なほ
6月8日(日)	「紫キャベツの迷路」	〃	山	村	夏紀
7月13日(日)	「コルクシートを使ったサンゴ礁」	〃	杉	本	緑子
9月14日(日)	「落ち葉と銅箔のレリーフ」	〃	城	野	真由
10月12日(日)	「広がる丸いかたち」	〃	菱	沼	千鶴子
11月9日(日)	「カラフル・スクラッチ」	〃	田	中	偉公子
12月14日(日)	「絵馬屏風」	〃	飯	干	美佐子
1月11日(日)	「トンパ文字の描き初め」	〃	今	井	富美子
2月8日(日)	「雪名山」	〃	城	野	真由
3月8日(日)	「ワクワクうずまき」 「私だけの夢の熱帯魚」	〃	杉	本	緑子

- ・進行役がプログラムを決める。
- ・練習会までに必要画材の調達と資料写真、参考作品の準備をする。
- ・個人で用意できるものは参加者に持参画材として伝え、単独の購入が難しいものは会でまとめて買う。
- ・個人負担はなるべく抑え、協会からの活動支援金を主に活動を行う。

# 練習風景と作品



# 課題 – 2025年度の活動を通して見えてきた今後の課題

月1回の練習会を続けることで、それぞれの情報交換の場となっている。

現場での活躍ができるように、真摯にプログラムに取り組んでいる。

持っている資格を生かした現場があることが望ましいと感じる。

役所関係の人、介護施設の人などに話をする機会はあるものの、いい反応は見せてくれるが現場に繋がらなくもどかしく感じたことがある。

よく言われる言葉に「ボランティアなら。。。」

この言葉を乗り越えていくために、多くの人に知ってもらおうということを会のみんなで行き届かせることとした。会の中での技術向上を図りながら、繋がりを生かしていく。また、新たな入会者により新鮮な気持ちで盛り上がりを見ることができているので、今まで行ってこなかった練習会場での活動を始めることとした。

多くの方々に知っていただくためにどのような働き方が必要かを、今後の課題として会全体で取り組んでいくと試行錯誤している状態です。

# 展望・目標－2026年度の計画

2025年の後半から検討していた練習会場での展示会とワークショップ開催を始動している。臨床美術以外に仕事を持っている会員がほとんどなので、ゆとりをもって計画を進行している。

## 展望・目標

- ◎「おたふくの会」の会員で作り上げる展示会とワークショップを開催することにより、多くの参加者に来訪していただき、会の活動を広く伝える。  
定期開催も視野に入れている。
- ◎2026年3月 ワorkshopのためのプログラムの練習会
- 4月 ワorkshopの画材の準備、地域周辺へのチラシの配布
- 5月 展示会とワークショップ
- 6月 展示会とワークショップの反省会と次回に向けての意見交換
- 7月から通常練習会

「おたふくの会」において、やりたいことや実現できることをしっかり話し合いながら、チームで活動の幅が増やせ、前に進む手立てを作っていきたいと思う。

以上